



発行所 磐城日日新聞社 福島県小名浜町港通51 電話代表367番

新春景氣沸かす濱の寶船

新春の初漁船團が銀鱗輝く鰯を満船、大漁の旗をはためかして相次いで小名浜港入港。ビチ／＼と生きのいい大形いわし

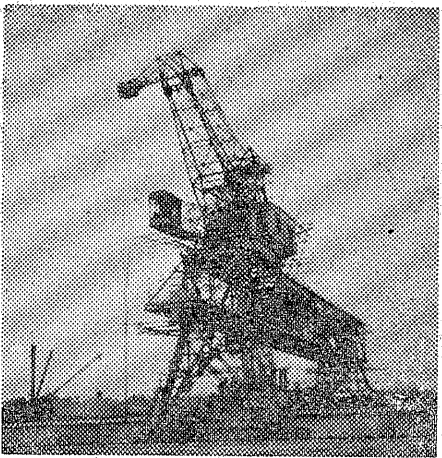
銀鱗輝く鰯三万貫

夢よもう一度と小名

五四年の課題に 新春を呼吸するもの

小名浜の巻

名浜港の増充整備も緊急な要項で昨夏以来の聲は次第に高まりつつあった



一九五四年の新春ともが約されている。現に乗り出し大竹知事

網領 権力に屈せず言論の自由を守る 公平な批判、公明な報道

編集メモ

浜ッ子キビ／＼した来訪者箱が降りて来たトラックに隣接して通はれて、風景

鹿島合併して盛會

小名浜町新年名刺交換會 出席 野崎収入役の朗

千噸級汽船を三隻

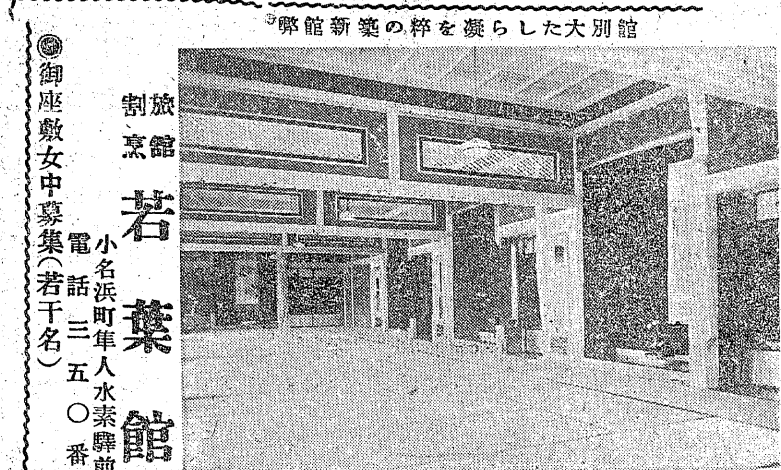
易々材料、花形グレーン

これ同様の能力は今日迄の高役作業に一大変革を興え各方面から高く

新町長が占める椅子の縁も新鮮で清潔である この空気を汚してはなら



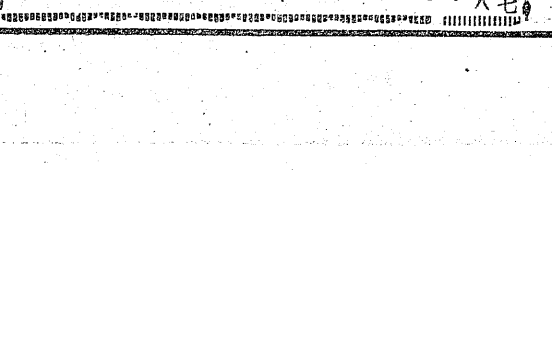
雲俳句抄 竹貫菅生竹汀 簾ぐるる鳥影のあり凍解くる



若葉館 小名浜町単人水素駅前 電話三五〇番

三森醫院 院長 三森光三 助産婦 三森晴江

飯塚シン商会 営業所 補田町本町電話二〇七



小名濱港灣會社に危機!!

差押物件競賣処分か

退職金要求に應じよ地裁が斷

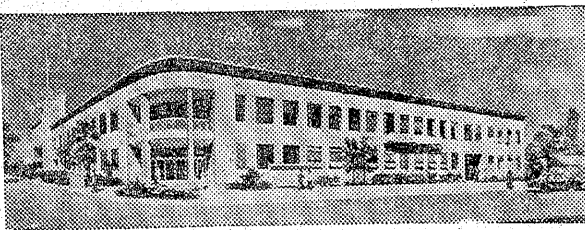
退職金問題を巡る小名濱港灣會社争議は原告従業員側の要求の正當性を認め、地裁は會社に對し支払義務の斷を下し、ついに旧臘三十一日假差押物件の正式處置を執行したが、會社の運営に致命的な打撃は必至であり、會社側が命運賭す物件だけに旬日に迫る競賣處分と會社の對策が注目されている。

昨年五月以來抗争を續け三十一日遂に假差押物件として小名濱港灣會社(件トランス二基、モータ社長西丸猛氏)に對する三名の退職金要求に拘る訴証事件は、舊臘十七日要求金額四十四万四千九百二十四と、二十八年月六日から完納まで同金額に對する年五分の割合の利息を附して支払うこと、また退職者の訴証費用は會社が負擔する旨の判決があり、その後會社側で支拂義務を依然として果たさなかつたので、

本日開業仕り候

明るい小名濱新廳舎

新築完成、湯名、江名、鹿島街道の十字路に接する小名濱會社のお引越を始めてこの日訪れた町



越し、役員更員さん達は三日の日曜日を返上して全員出席、エツチラ、おつちら、と各自書類や器具の運搬に終日奉仕して舊廳舎からの移轉を完了した。

太郎鳥と花子鳥

濱野 幸子

「おや、と或る日の事です。二羽の可愛らしい小鳥が仲よく何處からとなく飛んで来ました。真白い羽根が、陽春に照らされてとても美しく映えていました。やがて、その小鳥達は、だるそうに伸びている一本の電線に静かに止り、こう囁きました。「もう、古いお空とお別れだね……」「え、でも御覧——、随分澤山の人だこと!」「二羽の小鳥は長くちばしを樂しげに動かしな

た。グン／＼空をかけて行くと、海が青々と波打っているのが見えました。大小の船が白波を蹴つて勇ましく、沖へ沖へと進んでいきます。「まあ、素晴らしい!」花子鳥は思はず叫びました。太郎鳥も續いて「海の町だね——」と一面に瀾る海岸の上をめぐりました。「あら? お兄さん!」花子鳥は何を見たのか、眼を丸くして太郎鳥を呼びました。「ほら、あの真白い立派な持主で何時も美しい瞳を覗かせるわ。汚れや悪事を知らない善良な小鳥達です。」「さあ、住む場所を造らう……」太郎は妹鳥を誘って再び空高く飛び立って行きまし

樋口呉服店
小名濱町 電話三〇四

天気予報
本日 東寄りの風、くもり一時晴すが處により時雨
(海上) 今明日とも風波がや、強くしけるので船は注意

魚菜市況
小名濱中央魚菜市場
一〇二、五〇馬鈴薯
四六七七八八玉ねぎ
八〇八五五五五五五五
三〇九大根二五五四〇白
菜四〇五七五七五八
二〇〇芋六五五五五五

名入 半天 手拭 前掛
馬目染工場
平市五丁目(新川町通り) 電話五五八番

第一位通産大臣賞受賞記念
懸賞大売出し
マグネット号自轉車
高橋自轉車店
小名濱町上横町

3、6日迄 同時上映
復讐は俺に任せろ
風雲八萬騎
エノケンの法界坊

君の名は
文化木炭
福島縣小名濱町定西
電話七九番

小名濱町船引場四三(駅前)
産婦人科 白鳥醫院
電話七三五番
醫師 白鳥隆二郎
醫師 白鳥悦

平マーケット
小名濱第二小学校前電話三〇七

美容院
パール美容院
小名濱町中七二 電話三五九

三輪車界の王者
ダイハツ号
宮下商會
電話一九八番 四五九番